

愛労連

愛知県労働組合総連合

名古屋市中区新栄一丁目22-18

TEL 052-262-1377

発行人 阿部精六

第22号 1992年6月30日

参議院選挙

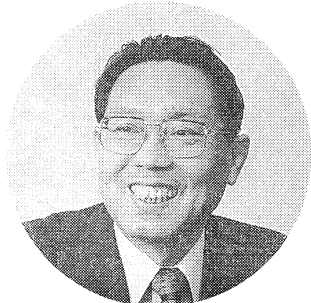
告示 7月8日(水)

投票日 7月26日(日)

憲法を職場と暮らしに生かし 労働者の力で政治の革新を



60年安保闘争も国会で強行採決後、歴史的な大闘争となった。PKO協力法発動阻止の
出発点は、参議院選挙闘争だ(写真は「6・12 PKO協力法阻止緊急県民集会」名古屋栄小公園)



自公民、PKO協力
法案を強行採決

六月十五日夜、自民・公
明・民社の三党は、憲法違
反の「自衛隊海外派兵法」
PKO等協力法案」を国会

で強行採決しました。
「平和憲法を守れ！」の
国民世論と「日本はまた侵
略の道を踏み出すのか」と
いうアジア諸国の危惧に背
を向けて、そしてまた議會
制民主主義のルールを踏み
はずした強行採決で平和憲

法を踏みにじりました。
「自衛隊海外派兵阻
止」の闘いは、これ
からが大事

しかし、PKO協力法へ
の闘いは終わったものではあり

PKO協力法発動阻止を 参院選で国民の審判を

愛労連議長 井上 利雄

ません。「6・12 PKO協
力法案反対緊急集会」で森
英樹名大教授が訴えたよう
に「法案の成立は新たな闘
いの始まり」なのです。
法案成立後の世論調査で
はPKO協力法反対や自衛
隊の海外派兵の声は、審議
中より一層高くなっています。
自衛隊の派兵と公務員
や民間からの強制派遣を許
さない闘いを大きく広げな
ければなりません。

覆われ、私たちの暮らしも福
祉も教育も、積年の矛盾が
吹き出しています。放置す
ればもっとひどくなるし、
私たちが立ち上がれば未来
への展望を切り開くことが
できるでしょう。

こんな自民党政治とそれ
を助ける一部野党に私たち
の未来を託してよいはずが
ありません。

この間、国会では老人保健
法改悪をはじめ数々の悪法
が通ってしまいました。参
議院では「与野党逆転」な
のに何故なのか？その背景
も見て、確かな政党選択、
主権者としての自信をもつ
て投票をしたいものです。

悪政で、生きづらい
社会になってきた

自民党の大企業本位の政
治で、大企業は一〇〇兆円
を越える内部留保をためこ
む大儲けをしている一方、
企業を支える労働者は「カ
ロシ」の危険と低賃金、
長時間・過密労働で苦しん
でいます。国家的不当労働
行為による国鉄労働者一、
〇四七名の解雇と地労委命
令の無視、たった一度の残
業を拒否しただけで解雇さ
れる目茶苦茶な権利侵害な
ど、大企業を中心に憲法に
保障された労働者の権利は
ないがしろにされている日
本。中曽根が強行した「臨
調・行革」路線のもとで、
医療・年金・福祉は改悪に
つく改悪で病人や障害者、
老人などには年ごとに生き
づらい社会になりました。

「公約破り」の消費税は国
民一人あたり五万円の重い
負担をおわせ、コメの輸入
化は農業を破壊し、無軌道
な開発政策は美しい日本の
山河を荒廃させています。

自民党は「ソ連や東欧諸
国と比べて日本はまだま
し」などと居直っています。
しかし、ソ連や東欧の
事態はこれらの諸国が社会
主義の道を踏み外し、国民
の自由を抑圧し、国民の暮
しを犠牲にして軍拡競争
に走った結果であり、自民
党の言い逃れにごまかさ
れてはいけません。

自由を抑圧し、軍事費の
歯止めのない拡大は、今日
の自民党政治にこそ当ては
まるもので、この道に未来
はありません。

参院選で海外派兵推
進勢力に痛打を

参議院選が目前に迫りま
した(告示七月八日、投票
七月二十六日)。

まず、この参院選で「国
民・労働者は、憲法違反の
海外派兵を絶対に認めな
い」との決意をしめそうで
はありませんか。PKO協
力法案強行採決の自公民に
鉄槌を加えましょう。

政治が変われば、
未来が開ける

今度の参院選はかつてな
く重要な選挙です。

「どうせ政治は変わらな
い」として、棄権したり、
誤った選択をすることは自
殺行為です。「平和」の問
題だけでなく、いま日本の
社会は自民党政治の害毒に

確かな政党選択を

現在、参議院は自民党の
過半数割れが続いています
が、憲法違反のPKO法案
は強行されました。私たち
は公明・民社が手を貸した
事実を忘れるわけにはゆき
ません。

「連合」の山岸会長が消
費税導入、小選挙区制、P
KO法案などの悪法に対
し、陰に陽に画策してきた
事実も重大です。その「連
合」は、今、参院選へ向け

職場で、家庭・地域で、
大いに政治を語り、積極的
な後援会活動を展開して、
政治活動の先頭にたとうで
はありませんか。組合員の
みなさんの奮闘を大いに期
待します。

労働者、労組こそ、
政治革新の先頭に

愛労連も全労連も「政党
支持の自由」をうたい、組合
員を特定政党の応援にかり
だしたり、組合費を特定政
党に流したりはしません。
その点は「特定政党支持組
合」とは明確に違います。

しかし、だからと言って
労働組合と組合員が政治に
無関心であっていいわけは
ありません。私たちの暮し
と福祉、教育、平和……な
どが、全てに選挙結果が大
きく影響し、私たちと日本
の未来がかかっているから
です。

